

橋梁保全で研究所設立

外部と連携 信頼性の高い技術提供

大日本コンサルタントは1日、老朽化が急速に進む橋梁などの構造物の保全に対応するため、「保全エンジニアリング研究所」(笠井利貴所長)を本社内に設立した。計測・

診断室と「構造物マネジメント室」で構成し、有識者や大学などの外部研究機関とも連携した上で、信頼性の高い保全技術の提供を目指す。

同社はこれまで橋梁保全事業に積極的に取り組み、橋梁の計測モニタリング装置や交通振動の影響を解析するソフト、

具体的にはASP(アプリケーション・サービス・プロバイダー)による橋梁マネジメントシステムなどを開発。07年に国内で発生した橋梁の破断事故でも、これら技術を活用して修復に貢献してきた。

ケーシジョン・サービス・プロバイダー)による橋梁マネジメントシステムなどを開発。07年に国内で発生した橋梁の破断事故でも、これら技術を活用して修復に貢献してきた。

し、道路などの道路構造物の保全に関する点検・調査から計測・モニタリング、解析・診断、施工管理、維持管理計画策定に至るトータルエンジニアリングを提供。新たな要素技術の開発や人材育成を通じて真の保全技術を確立し、未知の問題にも迅速に対応していく方針だ。

橋梁の老朽化への対応が社会的課題となる中、破断事故を契機に橋梁の保全に関する問題をトータルで解決するエンジニアリング技術の必要性は一段と高まると判断。同研究所を設立することに決した。

具体的には、計測・診断室は構造物の現状を把握